

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動遊びと療育支援 こどもプラス柏たなか教室		
○保護者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34人	(回答者数) 28人
○従業者評価実施期間	2024年11月22日		～ 2024年12月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	充実を図るための取組等
1	楽しく身体を動かしながら、心と体の発達を促すことができる柳澤運動プログラムの実施をしている。	定期的に運動研修を実施しており、日々スキルアップできるよう意識している。 より楽しく身体を動かせるように、月や週ごとに目標や課題(跳躍力、支持力等)を決めて活動内容を考案している。	どの職員もより充実した運動遊びが実施できるよう、専門性向上に向けた研修機会を増やしていく。 また言語聴覚士による個別でのサポート提供もより拡充させていく。
2	最高のサポーターになるという理念に基づいて、お子さんや保護者の方1人1人に心を込めた対応をさせていただいている。	保護者の方とのコミュニケーションも大切にし、送迎時等に積極的に共有や報告等をしている。 また丁寧な対応ができるよう適切な人員配置をしている。 「ご利用者様とご家族様にとって最高のサポーターである」という理念をかかげ、常に共有している。	全職員がより心を込めた対応ができるよう、情報共有を徹底していく。
3	粗大運動だけではなく、微細運動として制作等の机上活動やイベントも積極的に取り入れている。	運動遊び後の集中力が向上する時間を活用し、落ち着いて机上活動等に取り組めるように工夫している。 また指先を使った制作や遊びを積極的に取り入れている。 自立支援や余暇の提供として、制作や外出等様々なイベントの機会をつくっている。	継続して取り組んでいく。

	今後の課題だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会の充実。	日曜日開催のことが多く参加が難しい現状にある。 散歩や公園遊び、イベントでの外出による地域交流の機会はつくることができているが頻度や関わりは少ない。	積極的に情報収集を実施し、多様な交流の機会をつくる。 また散歩や公園遊び、イベントでの外出での交流(挨拶等)も大切にしていく。
2	家族支援プログラムや家族等も参加できるイベントや研修会、また情報提供の機会の充実。	研修会等の情報収集ができてなく、送迎やモニタリング等での個別での対応が多い。 またペアレントトレーニングは長期間の為、実施が難しい現状にある。 家族参加のイベントは参加率が低くなってしまふ。	よりよい家族のサポーターになれるよう、ペアレントトレーニングやコミュニケーション研修等を実施していく。 より多くの方が家族参加型のイベントに参加していただけるよう、日程や内容を再検討していくとともに参加することの良さを伝えていく。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動遊びと療育支援 こどもプラス柏たなか教室		
○保護者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	2024年11月22日		～ 2024年12月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	充実を図るための取組等
1	楽しく身体を動かしながら、心と体の発達を促すことができる柳澤運動プログラムの実施をしている。	定期的に運動研修を実施しており、日々スキルアップできるよう意識している。 より楽しく身体を動かせるように、月や週ごとに目標や課題(跳躍力、支持力等)を決めて活動内容を考案している。	どの職員もより充実した運動遊びが実施できるよう、専門性向上に向けた研修機会を増やしていく。 また言語聴覚士による個別でのサポート提供もより拡充させていく。
2	最高のサポーターになるという理念に基づいて、お子さんや保護者の方1人1人に心を込めた対応をさせていただいている。	保護者の方とのコミュニケーションも大切にし、送迎時等に積極的に共有や報告等をしている。 また丁寧な対応ができるよう適切な人員配置をしている。 「ご利用者様とご家族様にとって最高のサポーターである」という理念をかかげ、常に共有している。	全職員がより心を込めた対応ができるよう、情報共有を徹底していく。
3	粗大運動だけではなく、微細運動として制作や宿題等の机上活動やイベントも積極的に取り入れている。	運動遊び後の集中力が向上する時間を活用し、落ち着いて机上活動等に取り組めるように工夫している。 また指先を使った制作や遊びを積極的に取り入れている。 自立支援や余暇の提供として、制作や外出等様々なイベントの機会をつくっている。	継続して取り組んでいく。

	今後の課題だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会の充実。	日曜日開催のことが多く参加が難しい現状にある。 散歩や公園遊び、イベントでの外出による地域交流の機会はつくることができているが頻度や関わりは少ない。	積極的に情報収集を実施し、多様な交流の機会をつくる。 また散歩や公園遊び、イベントでの外出での交流(挨拶等)も大切にしていく。
2	家族支援プログラムや家族等も参加できるイベントや研修会、また情報提供の機会の充実。	研修会等の情報収集ができてなく、送迎やモニタリング等での個別での対応が多い。 またペアレントトレーニングは長期間の為、実施が難しい現状にある。 家族参加のイベントは参加率が低くなってしまふ。	よりよい家族のサポーターになれるよう、ペアレントトレーニングやコミュニケーション研修等を実施していく。 より多くの方が家族参加型のイベントに参加して下さるよう、日程や内容を再検討していく。また参加することの良さを伝えていく。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動遊びと療育支援 こどもプラス柏たなか教室		
○保護者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 5人	(回答者数) 3人	
○従業者評価実施期間	2024年11月22日		～ 2024年12月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7人	(回答者数) 7人	
○訪問先施設評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者) 3件	(回答数) 1件	
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	充実を図るための取組等
1	障がい児支援事業での経験が多岐にわたる職員が多く、より専門的な支援を実施することができる。	保育所等訪問支援を担当している職員での会議を開催し、複数教室での情報や意見交換をしよりよい支援にできるよう改善していく。 またその開催頻度を増やしていく。
2	保育所等訪問支援を積極的に実施している。	継続して取り組んでいく。

	今後の課題だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先での振り返り時間の確保や訪問スケジュール調整等が難しい。	訪問先の時間的余裕がなく調整が難しい現状がある。	より積極的にコミュニケーションを取り、訪問先や担当の先生との関係性を構築していく。
2			